

## 地域日本語ボランティアとは？

ー鹿児島で暮らす外国人に「ことばで寄り添う」ためにー

2022年5月24日(火)

(一財)日越教育・交流協会 日本語講師

大下郁子

### 1 自己紹介

- ・ 新潟県村上市出身、鹿児島県霧島市在住
- ・ 人間・環境学博士（日露交流史専攻）
- ・ 行政書士試験、宅地建物取引主任者試験合格
- ・ 2018年日本語教育能力検定試験合格
- ・ 2019年～オンライン日本語教師として活動

### 2 現在の主な活動

#### ①留学生のための学術日本語支援

日本の大学や大学院に所属する学生や、留学を希望する学生に、論文、レポート、研究計画書の書き方などを指導

#### ②日越教育・交流協会ボランティア日本語講師

2021年6月～株式会社南光の外国人社員3名（いずれもN2）にオンラインで日本語教室

- ・ 毎週1回1,5時間程度（現在は日曜日午前9時～）
- ・ 鹿児島の歴史・文化・仕事・暮らしなどの話題に関するサポート・アドバイザー役として当協会の灰床専務理事も毎回参加

### 3 今日のお話＝地域日本語ボランティアとしての基本的な考え方

4 地域日本語ボランティアとは？＝地域で暮らす外国人と日本語を通じて学び合うこと

- ・ ボランティア＝社会貢献、国際交流
- ・ 外国人＝日本語を学べる、日本人と日本語で話せる、日本人に気楽に相談できる

5 地域日本語ボランティアを行う上で大切にしていること

「楽しく、楽に、続ける」

※ 続けることが大切！

- ・ 言葉は継続的に学ばないと身に付かない
- ・ 外国人にとって安心できる場の存在は必須

6 具体的に気を付けていること＝「ことばで寄り添う」

①傾聴

学習者：教師＝7：3

相槌をしながら話を促し、日本語で話してもらう。

言葉が出てこない時には学習者が言いたいことを日本語で表現してあげる。

②適切な誤用訂正

③説明型授業ではなく、質問型授業

④教えるのではなく、学び合う

⑤日本語教育≠国語教育

日本語を国語(母語)としてではなく、一言語として客観的に捉える視点が必要。

⑥「やさしい日本語」

⑦日本語、日本文化、ビジネスマナー

⑧難しい質問には、教室終了後調べて後日回答

⑨情報提供

⑩学習者は大人、大人として接する

## 7 その他

①日本語教師の資格＝「告示校」で教えるための条件

- ・ 大学または大学院で日本語教育に関する教育課程を履修し、所定の単位を修得し卒業した者
- ・ 学士の学位を持ち、日本語教育に関する適当な研修を 420 単位時間以上受講し修了した者
- ・ 日本語教育能力検定に合格した者

※ 大下は日本語教育能力検定試験に合格。試験勉強を通して、日本語教育学や言語学の知識を体系的、網羅的かつ効率的に身に付けることができ、現在の仕事にも役立っている。

②推薦図書

- ・ 中井延美『必携! 日本語ボランティアの基礎知識』(大修館書店、2018年)  
日本語ボランティアとしての心構えや最低限必要な日本語教育の知識がコンパクトかつ簡潔にまとめられている。

### ③推薦テキスト

- ・ スリーエーネットワーク編著『みんなの日本語初級』（スリーエーネットワーク、2012年）
- ・ できる日本語教材開発プロジェクト編『できる日本語初級』（アルク、2011年）
- ・ 武田 聡子・長崎 清美『留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール』（日本能率協会マネジメントセンター、2020年）
- ・ 金村久美・松田真希子『ベトナム人に日本語を教えるための発音ふしぎ大百科』（ひつじ書房、2020年）